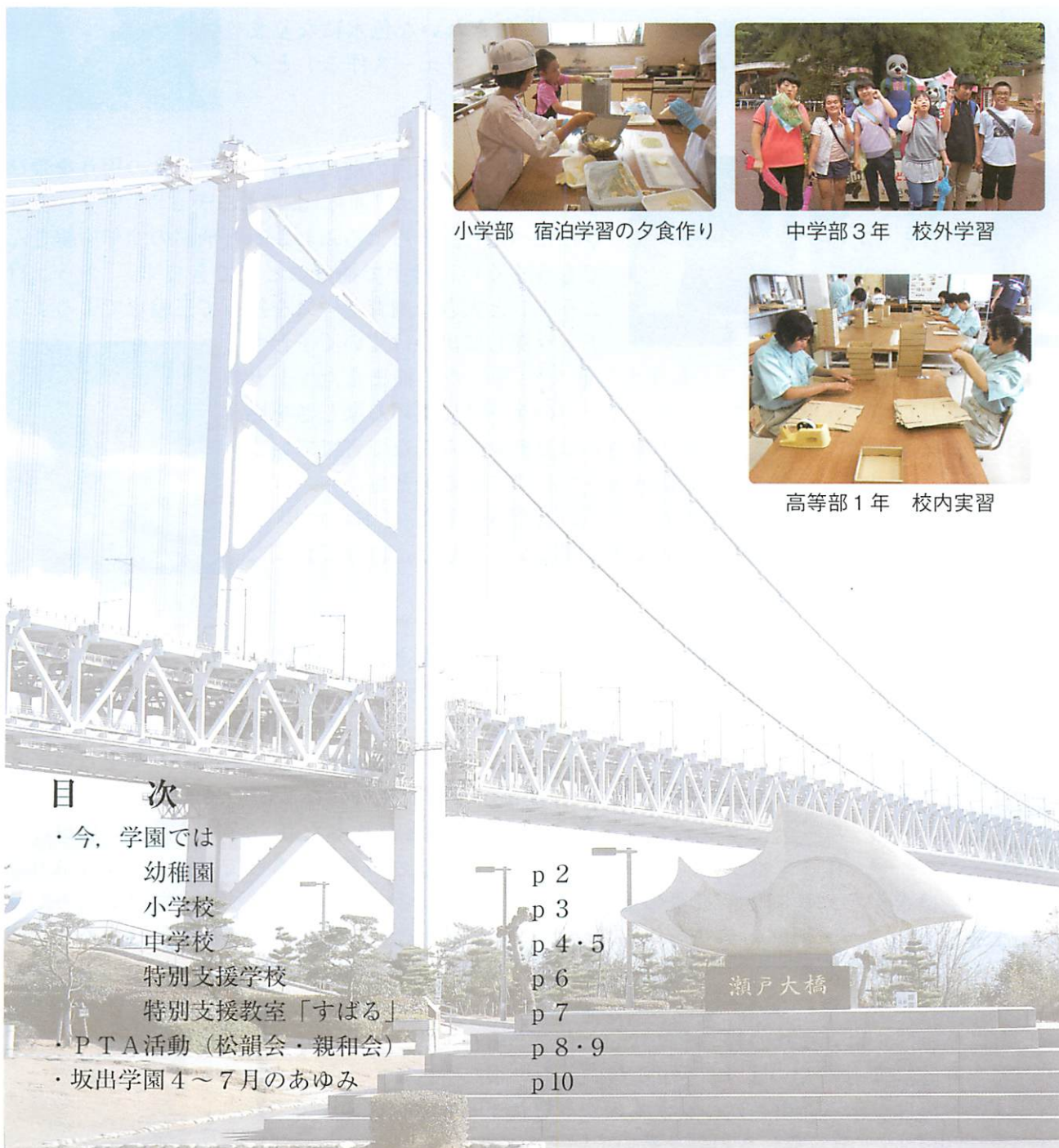


香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第54号

2016.7



小学部 宿泊学習の夕食作り



中学部3年 校外学習



高等部1年 校内実習

## 目次

- ・今、学園では
  - 幼稚園 p 2
  - 小学校 p 3
  - 中学校 p 4・5
  - 特別支援学校 p 6
  - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園4～7月のあゆみ p 10

## 虫や植物にふれる中で～自然への感性と科学の心～

## &lt;3歳児&gt;

「わ！いっぱいいた！」重い植木鉢の下にいたのは春を待っていたダンゴムシたちです。頭を寄せ合ってダンゴムシの動きに見入っています。触れなかった人も、年中組さんが触るのを見るうちにちょんっと触れてみたり、プリンカップに入れて大切に持ち帰ったり、それぞれの虫ストーリーが始まった様子です。「これはしっぽがあるね」「赤ちゃん見つけた！」と、かわいい探検家たちが今日もしゃがみこんで虫探しに夢中です。また、園庭を彩る花たちにも子どもたちの心は惹かれています。少し枯れた花（通称：しょんぼりさん）をビニル袋に水と一緒に入れてもむうちにきれいな色水になります。「青色になった！」と驚いたり、「今日はオレンジジュース作る」とイメージを広げたりして楽しんでいます。



## &lt;4歳児&gt;



気温が上がり梅雨の前になるとツゲの木の周りを飛び始めるのがシャクガ（通称：よろよろチョウ）です。チョウに比べると、よろよろふわふわと飛ぶので年中組さんでもうまくいけば手で捕ることができます。「さっ、行こう！」と大きな飼育ケースを持って三輪車でよろよろチョウ探しに出かけていく子ども

たち。「○○ちゃん！いたよ！」「もう少し上！」「やった！捕まえた！」とみんなで協力してチョウを捕る姿、そして一つのケースに集める楽しさを感じられる関係は素敵です。また、年中組さんは夏野菜もみんなで育てています。「大きくなあれ」と水と一緒に温かい心もあげている子どもたち。収穫の時期も迎え、採れたてをみんなでおいしくいただきました。「おかわり！」「もう一個！」とあっという間にお皿は空っぽになりました。自分で育てたお野菜は、また格別の味ですね！



ナスさん、大きくなあれ

## &lt;5歳児&gt;



キャベツのプランターの横で図鑑を開き、何かを調べている年長組さん。首からは虫メガネを下げ、手にはプリンカップに入ったアオムシが見えます。「これかな？」「いや、ここの色が違うからこっちじゃない？」どうやら本当にアオムシかどうか調べているようです。年少組から虫とのかかわりを重ねてきた小さな探検家たちは、今度は小さな研究者になっています。一人一人飼育ケースでダンゴムシを飼ったり、図鑑と見比べたり、時には面白い仕掛けを作ってバッタ捕りに挑戦したり、自分なりの考えをもって友達とのやり取りに

も刺激を受けながら幼稚園生活最後の虫との時間を楽しんでいます。また、特に女の子たちが夢中になっているのが、園庭の草花を使った色水や泡水作りです。きれいな泡水を見せ「こうなった…」と見せに来てくれたAちゃん。どうやら石けんのアルカリ性に反応し、予想とは違う色になったようで不思議に出会っている表情です。年長組になると、自分なりの経験を基にしたり、ある程度の予想をもって遊んだりし、楽しんでいます。『知りたい、不思議だ！』という思いいっぱいの毎日が学ぶ面白さにつながるのかもしれませんが。遊びの中で「科学」に出会い、学ぶ楽しさの礎を築いているのです。



あれ？昨日より固くなってる！

研究主題

# 学びに熱中する子どもの育成（仮）

## —学習意欲を育て、他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくり—

本校では、今年度より上記のテーマを設定し、学習内容に興味をもち、課題解決に向けて他者と協働しながら考え続ける子どもづくりに努めています。その授業づくりでは、これまでの研究成果を生かしつつ、学習意欲の視点で検討しながら、場面に応じた働き掛けを取り入れています。今年度の教育研究発表会は、1月26日（木）、27日（金）に行います。先生方のご参会、また保護者の方のご協力を、どうぞよろしくお願いたします。

### 研究授業

#### 2年 生活科「おいしくなあれ！ 私たちの野菜」

なかや けいこ  
中家 啓吾

子どもたちは、附属幼稚園の青組さんと一緒に野菜パーティーを開くために、野菜を育てました。この野菜作りの学習を始める前、子どもたちが野菜の世話について知っていることは、水やり、声かけ、肥料やりくらいでした。それは、アサガオやチューリップを育てた経験に基づくもので、これまでの学習や経験を活かしていることはすばらしいのですが、野菜を大きくおいしく育てたいという子どもたちの願いを実現するためには知識が少し不足していました。そこで、野菜の苗を植え付けた後の授業で、まず、自分が育てている野菜についてこれからどんな世話が必要になるかをグループで調べました。また、お家の人に世話について聞いてきて、それぞれの野菜について世話の仕方を全体で確かめました。それにより、「大きくなってきた野菜の健康観察をしよう」という学習問題の授業において、子どもたちは野菜の健康状態をよく観察するとともに、今、野菜に必要な世話は何かを考えることができました。例えば、大きくなって倒れそうだから支柱を立てたり、わき芽が伸びてきているからそれを取ったりするという必要な世話に気付き、その場ですぐに世話を始める子もいました。野菜の健康観察後に、全体で野菜の生長具合を確かめると、これまで世話を続けたことで大きく育ってきたことが共通理解され、今後さらに必要な世話についても見通しをもつことができました。



【これからする世話を一緒に確かめる】

これから野菜を大切に育てようという気持ちを高めた子どもたちは、授業後も野菜の栽培活動に熱心に取り組み、野菜をたくさん収穫することができました。



【野菜の生長具合を調べる】

#### 4年 算数科「整数の表し方や仕組みを調べよう ～一億をこえる数～」

しろかわ あきひろ  
白川 章弘



【位取り板を使って確認】

子どもたちは、1年生で100をこえる数、2年生で10000までの数、3年生で1億までの数と、お金や数え棒などの具体物を使いながら、徐々に大きな数について学んできています。本単元では、これまでの学びを生かして1億をこえる数の表し方や仕組みを捉えた後、整数全体に目を向け、「すべての整数は、10種類の数字で表すことができる。」「それぞれの単位の個数が10になると新しい単位になり、数字の位置によって表す数が変わる。」と、十進位取り記数法に基づいた整数の表し方や仕組みを捉える力の育成を目指しました。

整数の表し方や仕組みを捉え、十進位取り記数法のよさを感じさせるためには、子どもたちが主体的に、さまざまな数を多面的に見て表すこと、数の見方を基に大きな数をつくったり、計算の工夫を見いだしたりしながら数の仕組みを捉えていくことが大切です。

そこで、本実践では、まず、位取り板と数字カード、数直線を使って数のイメージを膨らませるようにしました。その際、教師が提示するいくつかの数だけを扱うのではなく、子どもたちが選んだ数を使って問題をつくり、つくった問題を解き合う場を設定しました。また、獲得した数の見方を基に大きな数をつくらせる際も、教師が提示した「10種類の数字をすべて使ってできる、13桁で一番大きい数」のように条件に合う数をつくった後、「一番小さな数は・・・」「桁数を増やすと・・・」などと、個々が考えた問題に挑戦させるようにしました。

このような場の設定により、大きな数の表し方や仕組みに興味をもち、意欲的にさまざまな数を多面的に見たり、大きな数をつくったりする姿が見られました。また、問題を解き合う中で、十進位取り記数法のよさを感じるとともに、整数の表し方や仕組みについての理解をより一層深めていくことができました。



【個々がつくった問題に挑戦】

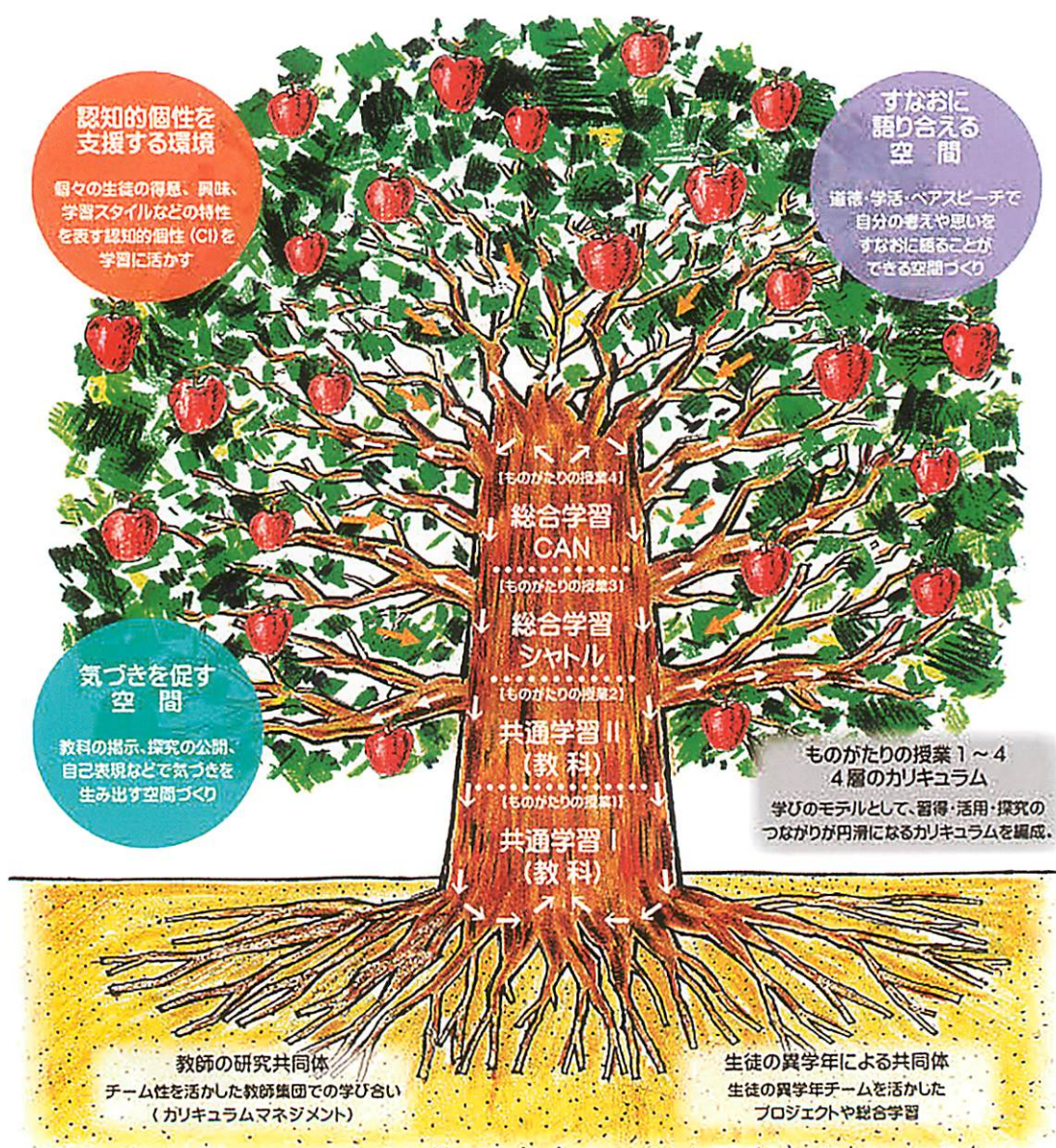
6月17日（金） 研究発表会

# 「学ぶこと」と「生きること」をつなぐ「ものがたり」

— 一個が響き合う共同体をめざして —

6月17日（金）、平成28年度附属坂出中学校教育研究発表会が、晴天のもと盛大に行われました。当日は、県内外の幼・小・中・高・大学および教育関係機関などより800名を超える参会者をお迎えし、本校の教育実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。今回の研究では、生徒が学習の主体者となる「ものがたり」の授業によって、「学ぶこと」と「生きること」の統合を具現化する指導方法やカリキュラムについて提案しました。

## 研究構想図～一個が響き合う共同体の木～



総合学習CAN



教科・学校保健



【国語】



【数学】



【音楽】



【保健体育】



【理科】



【社会】



【技術】



【家庭科】



【学校保健】

講演

東京大学大学院教育学研究科教授の秋田喜代美先生には、「学びの物語を保障する授業」という演題でご講演いただきました。生徒の学びの物語を見とり、それを活かした授業のためには、深い理解を伴う授業デザインとその実施、さらに省察を学校全体で創りだすことの大事さを当日の授業の様子を基に分かりやすくご提案いただきました。



研究大会を振り返って…

各教科等の研究協議会やアンケートでは、参観者の方々から本校の研究実践について多くの賛同の声が寄せられました。また、生徒たちが自らの学びを振り返って新たな気づきや問いをもとに「ものがたり」を生み出す姿にも高い評価をいただきました。これも本校生徒一人ひとりの頑張り、各校園の諸先生方、そして保護者の皆様方のご理解があつてのことと深く感謝しております。そして今大会の成果と課題も踏まえ、今後も本校の教育実践を全国に発信していきたいと思っております。

## 附属特別支援学校における進路指導について

### 特別支援学校の進路

特別支援学校の進路先には、一般事業所（会社）への就労【一般就労】と福祉事業所への通所、入所【福祉就労】、そして【進学】があります。

一般就労は会社に就職し、一般の方と同じように働きます。福祉就労はいくつかのタイプがあり、本人の実態や本人・保護者のニーズに合わせて選べるようになっています。

進学については、件数はほとんどありませんが、障害者職業能力開発校という（岡山や広島などにある）学校が主な進学先になります。

### 本校の進路決定の流れ

高等部では卒業後の進路を決定するまでに1年次に1回、2年次に2回、3年次に2回以上、合計で5回以上の「現場実習」を行います。「現場実習」とは実際の事業所で2週間から4週間働き、日頃の作業学習や職業教育の成果を試す場と同時に働く経験、働く力、働く意欲等を身に付けたり、学んだりする意義ある実習です。1年生は働く大切さを知る実習として（前期は学校内で実習）、2年生は自分の力を試す実習、3年生は進路を決める実習として各一般事業所や福祉事業所で行います。中でも3年生は個別（一人）で行い、福祉就労を目指す生徒にとっては、進路先を選択する場となり、一般就労を目指す生徒にとっては実質の入社試験となります。そのため、現場実習の結果で卒業後の進路先が決定していきます。

### 附属特別支援学校の進路状況

卒業年度	一般就労	福祉就労	計
24年度	3	5	8
25年度	2	7	9
26年度	1	10	11
27年度	2	6	8



現場実習の様子

### あいさつ運動（現場実習前）～校内・現場実習

6月9日～24日まで校内・現場実習を行いました。それに先立って5月23日～27日に「あいさつ運動」を高等部で実施しました。元気な挨拶ができることは職場でも大きな武器となります。タイミングのいい挨拶、気持ちのいい挨拶はしようとしてできるものではありません。やはり、日頃からの積み重ねだと思います。今回取り組んだことで、「あいさつ運動」後も進んで挨拶をする生徒が増えました。そして現場実習先でも、職場の方に元気に挨拶することができた生徒が多かったです。

その現場実習では、どの生徒も真剣に取り組み、自分で立てた目標が達成できるように頑張っていました。また実際に現場で働いたことで、働くことの意識がより高まりました。

### 本校を卒業する生徒を雇用してください。

皆さんの周りに、障害者の雇用に関心がある方、また説明を聞いてみたいという事業主さんがいらっしゃいましたら、本校の進路担当（塩田）まで連絡ください。障害者の雇用に関することでしたら、どんな相談でもお受けいたしますので、是非ご一報ください。

## 平成27年度 特別支援教室「すばる」活動報告

平成27年度の特別支援教室「すばる」の活動についてご報告します。

平成27年度の申込件数は99件でした。保護者や学級担任を対象とした教育相談事業として、電話相談を含め126件の教育相談を実施しました。個別指導事業として、通常学級に在籍する特別な教育的ニーズのある子どもを対象に、教科学習および社会性育成について個に応じた指導を実施しました。個別指導回数は、第1期から第3期合計で509回でした。

研修教育事業として、現職教員長期研修生2名を受け入れました。また、香川大学大学院教育学研究科特別支援教育専攻特別支援教育コーディネーター専修の大学院生（現職派遣教員）4名の指導実習を受け入れました。

平成28年2月27日（土）、香川大学教育学部幸町キャンパスにおいて、『香川大学教育学部特別支援教育研究大会』を開催しました。“発達障害のある幼児児童生徒の課題に応じた連携・継続した支援”のテーマのもと、保育士、幼・小・中・高等学校教員、特別支援学校教員、関係機関職員を対象として、特別講演や分科会を行いました。県内外より、午前の特別講演に222名、午後は5つの分科会に243名の方が分かれて参加され、盛況のうちに無事終わることができました。

### 特別支援教室「すばる」新スタッフ紹介

特別支援教室「すばる」のスタッフは、香川大学教育学部・香川大学大学院教育学研究科の教員と小学校・中学校・特別支援学校の教員で構成されています。

今年度、「すばる」は新しいスタッフとして2名の先生を迎えました。今回は、新スタッフとなった2名の先生を紹介します。今年度もどうぞよろしく願いいたします。

**吉田 三紀 先生**（現職教員長期研修生）

高松市立香東中学校より、内地留学生として1年間お世話になります。子どもたちが「分かる」「できる」と感じる指導・支援について、たくさんのことを学ばせていただいています。一人一人の子どもたちの困っていることに寄り添った指導・支援ができるよう努力していきたいと思えます。



**大池 真貴子 先生**（現職教員長期研修生）

香川県立善通寺養護学校より、内地留学生として1年間お世話になります。子どもたちが、日々の生活のなかで生き生きと過ごすことができるように、一人一人の学び方に合った指導・支援について考えながら行っていきたいと思えます。



## 幼稚園より

## 土曜メンテナンス

5月21日（土）、今年も幼稚園舎をきれいにしようと土曜メンテナンスを行いました。

今年度の松韻会は「ALL松韻会の絆づくり」をテーマに掲げ活動を行っており、幼稚園だけではなく小学校、中学校の皆様からのご協力いただき、参加者は総勢172名となりました。

お父さんの力をお借りし園庭に土を入れたり、子どもたちも一緒に窓拭きや床掃除、草抜き、砂場の整備など行ったり、みんなで力を合わせて交流&メンテナンスをしました。日頃お世話になっている園舎もピカピカになりました。

今年はまだ、余った時間で牛乳パックとチラシを使い、手作りのいす作りにも挑戦し、親子はもちろん保護者間の交流も深まり充実した半日となりました。



床拭きしてピカピカ



よいしょ！砂ふわふわ



みんなでがんばったよ！

## 小学校より

## ウェルカムパーティー

5月14日に、1年生を迎える「ウェルカムパーティー」を行い、150名もの子どもたちと保護者が、クイズやゲームを通して楽しい時間を過ごしました。子どもたちだけでなく保護者の方々も、新しい学校生活での「絆」を育めたと思います。



## JR親の会

子どもの命は大人が守るという共通認識の下、子どもの安全を確保し、公共のマナーを育てていきたいという思いから、「JR親の会」が発足しました。現在、附属坂出小学校では142名の子どもたちがJRを利用しています。「JR親の会」では、月・火・木・金の帰りの電車の時間帯に、駅のロビーやホームでオレンジ色のベストを着用してパトロールをしています。「危ない」と感じることも多々あり、そういった子どもの状況を共有し、安全やマナー面の意識を高めていければと思います。

バス通学や徒歩通学の子どもも同じだと思います。時々、ご家庭でお子さんの登下校について話し合ってみてください。



## 中学校より.....

### ウェルカムカフェ

4月22日（金）、附属坂出中学校では松韻会役員が設営し、保護者間の交流行事として例年、授業参観・松韻会総会の行われる日に合わせて行っていた「ウェルカムランチ」を改め、今年度から「ウェルカムカフェ」として、家庭科室において開催いたしました。4月から1年生に入学した生徒の保護者約60人の参加をいただき盛況な会となりました。カフェとなり、軽食と飲み物のセットをPTA役員が準備しました。

カフェでは和やかな雰囲気の中、保護者の自己紹介や中学校で1年を通して行われる行事について説明を行い、お子様に対して現在抱えている悩みなどをテーブルのグループで交流しました。それぞれのお悩みに対する同じ立場の保護者や先生方からのからのアドバイスや貴重な意見を聞くことができました。入学時に抱える不安も軽くなり、実りある有意義な約2時間のカフェとなりました。



### 市PTAバレーボール大会

7月3日（日）に坂出市立体育館において市Pバレーボール大会が行われ、松韻会スポーツ活動の一環として参加しました。今年度はソフトバレーに男性2チーム、女性1チーム、6人制バレーに小学校と合同で1チーム参加しました。練習では、和気あいあいと楽しく、真剣に取り組む姿が見られるなど、日ごとにチームワークも深まっていきました。試合は、残念ながら決勝トーナメントに進出はできませんでしたが、お互いの親睦が深まり楽しい時間をすごすことができました。毎年、行われますのでお気軽に参加してみてください。



## 特別支援学校より.....

### 四附連参加

4月28日（木）愛媛大学教育学部附属小学校にて開催された、四国国立大学附属学校連盟・四国国立大学附属学校PTA連合会の総会ならびに研究集会・協議会に参加しました。

総会の後に行われた特別支援学校部会では、「保護者同士のコミュニケーションの取り方について」「卒業後の福祉サービスの情報入手の仕方」「PTA行事への保護者の参加・協力の現状と今後の展望」について、情報交換や意見交換をしました。

人数の少ない中で、同じような悩みを抱えながらも、各校がそれぞれいろいろな工夫をしており、とても勉強になりました。

また、助言者としてご参加いただいた、井上様、戸栗様からも大変貴重なご意見を伺いました。戸栗様は、特別支援学校にお子様を通う保護者としての視点からご助言いただき、とても参考になりました。

その後の情報交換会でも、各県の保護者の方と交流ができ、いろいろな情報や悩み、工夫、解決方法など、たくさんお話をすることができました。

今後も、こういった交流を大切に、子どもたちのために温かい輪が広がるよう、努力していきたいと改めて感じました。



よりよい生き方について考えました

5月31日(火)に校内弁論大会が行われました。「社会を明るくするために」というテーマのもと、全校生が書いた作文の中から、各クラス1名が代表者として発表し、3年生の宮井遥さんと真鍋璃々さんが学校代表として選ばれました。



【宮井遥さん「母の愛情」】

宮井さんは、「母の愛情」という演題で母親と姉との日常のやりとりから娘を包み込む大きな母の愛情を実感したことを語ってくれました。真鍋さんは、「後悔しないように」という演題で、祖母との別れを通して大切なものは失ってから気づくことを実感し、今を一生懸命に生きることの大切さについて主張してくれました。



【真鍋璃々さん「後悔しないように」】

このような機会が全校生一人一人にとって、よりよい生き方をめざすきっかけとなることを願っています。

学校が美しくなりました！

6月11日(土)に松韻会主催の土曜メンテナンスとして、中庭の池の清掃や正門の植栽のせん定が行われました。今年度は、6月の研究会の参会者の皆さんに美しい中庭を見ていただきたいという思いを込めて計画されました。当日は晴天にも恵まれ、今年度の松韻会テーマ「ALL附属の絆づくり」のもと、幼稚園、小学校の保護者や児童、そして中学校の保護者、生徒、教職員約60名が協力し、藻が水底にたまった池はみるみるうちに美しくよみがえり、中庭や正門付近の植栽も整えられていきました。この行事に関わっていただいたすべての方々に深く感謝いたします。



中学校

大学との合同研究集会

6月8日、大学との合同研究集会を行いました。これは、小学校が毎年この時期に行っている行事で、研究授業や研究内容を大学の先生方に見ていただき、様々な立場からのご意見を聞くことで、今後の研究方向を確認する集会です。



今回は、3年の体育「ワン・ツー・フライト！～走・跳の運動～」という走り幅跳びの授業を公開しました。跳び箱の上から3歩助走でマット上に跳びます。本時の子どもは、空中の動きに絞ってコツを見つけ、チームの仲間とアドバイスしながら練習し、解決していきま



した。授業後の討議では、大学より来ていただいた七條正典先生、植田和也先生、松下幸司先生、米村耕平先生、上野耕平先生、岡田涼先生、齊藤嘉則先生、佐藤盛子先生の他、大学院生6名を交え、本校教員と共に主に授業について話し合いました。「分かる」と「できる」の関係、学び合い、場の設定等の視点で活発な討議がなされ、大学の先生方からは、体育や心理等それぞれの専門を生かしたご意見がありました。本校教員にとって得るものが多くあり、このような貴重な機会を

大切にしながら、今後も大学との連携を重視したいと改めて考えました。

小学校

特別支援学校

「大・大・大盛況！！春季運動会」

5月15日(日)。晴天のもと、春季運動会が開催されました。在校生、保護者だけでなく、卒業生、地域の方々にも多数参加していただき、大盛況の運動会となりました。その様子をいくつか紹介します。

【小・高合同競技】「でかパン競争」

はらべこのうさぎさん、たぬきさん、くまさんに小・高の児童生徒が力を合わせ、好きな果物を届けに行きます。運ぶときにはでかパンを着用。手をつなぎ、歩幅を合わせながら上手に果物を運ぶことができました。



【小・中合同競技】「なかよし玉入れ」

小学部・中学部の子どもたちが「さんぽ」の曲に合わせて仲良く一緒にかごを持って歩きます。曲が止まるのが玉入れ開始の合図。かごを目がけてたくさん玉が飛んでいました。



【中・高合同競技】「とびらをひらけば・・・」

二人でポールを持ち上げて、フラフープに入った友達を扉の前まで誘導し、扉にカギを差し込んでいきます。全部のカギがそろい、扉が開けば・・・本校のマスコットキャラクターのやまちゃん、ももちゃん、そして恵羅校長先生扮するやまもも大王が登場し、みんな大喜びでした。



幼稚園

「防災 ～危険から身を守ること～」

震災の恐ろしさ、防災意識を常にもっていることの大きさを感じます。5月23日、避難訓練(地震)を行いました。【①頭を低く ②頭を守る ③じっとして】を合言葉に自分の大切な生命を守ることを子どもたちと一緒に考えました。3歳児4歳児は、怖さを感じながらも先生の話を一生懸命に聞き、頑張って身を守って逃げる姿が見られました。5歳児は、自分の防災頭巾を手早く被り、「地震のときには、(頭を抱え) こうするんなら」火事の煙吸ったらいかん「あわてて押したらいいかん」等、今までの体験から考えることを友達に伝える姿もありました。自分がどうしたらいいか・・・と、瞬間的に考え動くために、頭と心に生きる知恵を少しずつ蓄えていけるよう分かりやすく継続的なかかわりを考えています。万が一のとき、どうすれば自分が安全か、予測のつくものではありません。その分、避難方法や物の準備とともに心の準備もしておきたいと思えます。特に、幼児は普段の生活から考えていきます。保育者の私たちが、防災への意識をもって連携した対応を常に考え、身につけていきたいと思います。



「楽しみ！水遊び ～プール開き～」

6月10日、青空のもと、黄・赤・青組の友達みんなプール開きをしました。小学校の大きなプールにどきどき、わくわくしながら、水遊びを楽しみました。大好きな先生と一緒にいたため笑顔になって水に触れたり、友達と水をかけ合って元気に遊んだり、また「見てね」と魚になったつもりで顔を水に潜らせたり、一人一人の子どもが「水」「光」「友達」に触れたひとときでした。さあ、これから水遊び、思いきり楽しみますよ。



編集後記

28年度がスタートしてすぐ、熊本は大きな地震に見舞われました。災害時に備えて訓練をしているものの、いざその場になってみると保護者、学校、地域との連携や臨機応変な対応が必要で、日頃から声を掛け合う関係作りが大切だということを感じています。そして、熊本の子どもたちに少しでも早く、笑顔が戻ることを祈っています。

また、夏休みに前に、リオデジャネイロオリンピック、パラリンピックの開催が近づいてきました。大きな舞台で今の力を最大限発揮できるよう、いろいろな分野のスタッフがアスリートを支えています。私たちも附属坂出学園という大きなチームのスタッフとして、子どもたちの成長に必要なことを見極め、見守っていききたいと思います。28年度も保護者をはじめ関係の皆様方のご協力、ご支援をいただけますよう、よろしくお願いたします。

発行年月日：2016年7月15日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

倉野 晴代 (附属幼稚園)

樽本 導和 藪内 雅昭 (附属坂出小学校)

小林 理昭 大西 光宏 (附属坂出中学校)

合田 卓生 妹尾 恭子 (附属特別支援学校)